

令和元年6月6日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H05158

研究課題名(和文) 太平洋諸語日本語起源借用語逆引き辞典を作成するための現地調査研究

研究課題名(英文) Field Research for the Construction of the Dictionary of Japanese-Origin Loanwords in Pacific Island Languages

研究代表者

Daniel Long (Long, Daniel)

首都大学東京・人文科学研究科・教授

研究者番号：00247884

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究で太平洋の18言語に入っている4783の単語(日本語起源借用語)を採集している。主な言語(パラオ語、チャモロ語、カロリン語、ヤップ語、チューク語、ポナペ語、マーシャル語、ハワイ英語)に入っている単語に関して聞き取り調査を行ない、それぞれの言語に入った語の意味変化や音韻変化の使用実態を確認した。構築した『太平洋諸島日本語起源借用語逆引き辞典』で日本語の「野球」を引くと、太平洋の15言語でその発音がhakiuu, iakiu, yaakyuu, yaekuyuuなどに変化している事や、「舵」の意味が「車のハンドル」に変化している実態から日本語が旧植民地の諸言語に多大な影響を与えた事が分かる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、「国際社会における日本語の位置づけの明確化」である。日本国民は外来語を意識しているが、日本語が他の言語へと入った現象(井上史雄の言う「外行語」)は知られていない。学術的意義として、日本語が音韻体系の異なる多数の言語に入っていくとどのような音韻変化が起きるかを分析できる。同様、意味論的な変化が起きているが、その類型(意味拡張、意味縮小、意味推移など)ができた。社会的意義として、これら旧植民地の言語がどのように日本語の影響を受けているか、また日本語がどのようにこれらの言語の語彙増加に貢献しているかの詳細を明らかにすることができた。『太平洋諸言語日本語起源借用語逆引き辞典』を編纂中。

研究成果の概要(英文)：Japanese are quite aware of the foreign words which have entered their language, but there is less awareness of the large number of Japanese words which have entered the languages of the Northern Pacific region. In this project we constructed a database of 4783 words which have entered 17 languages of the former Japanese colonies (Palauan, Chamorro, Carolinian, Yapese, Chuukese, Ponapean, etc.) as well as Hawaiian English. For these major languages varieties we conducted field work interviewing native speakers to find how Japanese Origin Loanwords have changed phonologically and semantically in the process. For example the Japanese word "denki" (electricity) has entered 14 languages but in many of them, including Pingelapese, its primary meaning has shifted to "flashlight". 14 languages use a word deriving from Japanese "zori" (sandal), but due to phonological changes the term is now "jodi" in Marshallese. These words along are compiled in our "Dictionary of Pacific Japanese".

研究分野：社会言語学

キーワード：社会言語学 残存日本語 借用語 外行語 旧南洋庁 言語接触 意味変化 音韻変化

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

これまで代表者の研究では旧南洋庁における日本語の習得(教室習得と自然習得を含めて)を母語干渉や転移など言語接触の観点から追究してきた。本研究では焦点を戦前から戦後に移して現在に至るまでの借用語の使用状況に注目した。これまでこの地域における日本語起源借用語(Japanese Origin Loanwords、以下 JOL)の採集や分析に取り組んできたや神崎杏実、島田めぐみ、井上史雄、Kimi Miyagi、Ryoko Hattori、Mark Goniwiecha、Tsz-him Tsui、Walsh、John & Eulalia Harui Walsh の個別言語を対象にした研究および言語間の傾向に注目した由井紀久子の数量的意味論研究を踏まえて、総合的な研究を目指した。

2. 研究の目的

日本人は自分の言語に外国語が大量に取り入れられていることをよく意識しているが、本研究では、日本語から外国語に入っていた借用語を対象にした。『太平洋諸言語日本語起源借用語逆引き辞典』の作成に向けて、旧日本帝国の膨張によって領域を拡大した日本語の語彙の影響に迫った。研究目的は次の問題を明らかにすることであった。旧南洋庁地域で使われている様々な言語にはどのような借用語が入っているか。それぞれの言語にはどれぐらいの日本語借用語(語数)が入っているか。借用語の意味分野にはどのような特徴が見られるか。辞典のほとんどは 1972 年~1980 年の間に刊行されたもので、データの元となっているインフォーマントは日本語が話せた世代だが、現在の日本語の話せない世代において JOL はどの程度保持されているか。JOL の発音がそれぞれの現地語の音韻体系にどのように適合しているか。その一方、JOL の導入によって音素が増えたり、音配列規則が破られたりしたような現象は見られないか。JOL の綴りは現地語の正書法に従っているか、日本語ローマ字表記のままになっているか。意味変化にはどのような現象(拡張、縮小、推移など)が見られるか。使用頻度、発音や意味にはどのような世代差が見られるか。

3. 研究の方法

研究は 4 段階に分かれた。まず、旧南洋庁の数々の言語に入った JOL をデータベース化するために、それぞれの言語の辞書を紙媒体で入手し、見出し語を目で追って JOL を採集する作業を行なった。次に、このリストを調査票にして、現地に出向いて、教養ある現地語母語話者を複数探して面接調査を行なった。調査では、その単語を知っているかどうか、どういう意味合いで使っているか、発音、つづり、品詞、複合語、活用形、使用者の属性(男性に多い、若者に多いか)などについて教えてもらった。また、調査中、インフォーマントに、調査票にない JOL が思い浮かぶということもあって、辞書にない語彙項目を増やすことができた。さらに、「パラオ語に日本語の電気や草履が入っているけど、あなたの言語では言わない?」のように、言語間の比較を行なうことで新たに JOL を発見するという有効な調査手段を使った。現地では言語景観調査も実施し、JOL を含む看板類(広告、公共表示)の写真撮影を行なった。三つ目の段階は、新たに採集した JOL 情報をデータベースに追加し、言語同士の比較をさらに進めるということであった。最後は現在進めている『太平洋諸言語日本語起源借用語逆引き辞典』の編集作業である。

4. 研究成果

本研究で対象とした旧南洋庁地域の言語は、カロリン語、チャモロ語、カピングマランギ語、コスラエ語、マーシャル語、モキル語、ナモルク語、ヌクオロ語、パラオ語、ピンがラップ語、ポナペ語、プルワット語、サタワル語、トラック語、ウルシー語、ウォレアイ語、ヤップ語。さらに、比較のために日本移民の言語的影響が大きかった「ハワイ英語」(ピジンやクレオール英語からハワイ標準英語までの言語的連続体の総称)を加えて 18 言語となった。今回の研究で 4925 語に上る JOL を確認することができた。

上記の 18 言語のうち、主なもの(州や国家の公用語となっているものや話者の多いもの)の面接による聞き取り調査は実施している。マーシャル語は 2018 年 9 月、ポナペ語は 2018 年 3 月、ヤップ語は 2017 年 3 月、チューク語は 2016 年 3 月、チャモロ語とカロリン語は 2015 年 9 月、パラオ語は 2019 年 3 月、2018 年 3 月、2017 年 3 月、2016 年 3 月、ハワイ英語は 2018 年 9 月、2017 年 5 月、2016 年 11 月に調査を実施している。これらの面接による聞き取り調査では以下に書かれている様々な変化や変異の詳細について確認することができた。残りの言語については、現在のところ各言語の辞典に掲載されている情報のみをデータベースして分析対象にしている。

これまでの学会発表や活字論文で多数の言語を分析してきた。研究課題は(a)意味変化、(b)音韻対応、(c)正書法、(d)使用状況、(e)調査法などの方法論の五つに分類できる。まず、(a)「意味変化」の分析はハワイ英語(論文、論文)やマーシャル語(論文)チューク語(論文、発表 25)、カロリン語、チャモロ語、パラオ語(発表、発表 22、発表 23)で行なっている。次に(b)「音韻対応」の分析はパラオ語(論文、発表 24)やハワイ英語(発表)を対象に行なっている。また、(c)「正書法」はパラオ語(論文、発表、発表、発表、発表 17)を中心に行なっている。さらに、(d)「使用状況」や社会言語学的な背景の研究としてパラオ語の発表、発表 21、発表 28 があり、ヤップ語の発表がある。(e)「方法論」や理論的研究には発表、発表、発表、発表、発表、発表、発表、発表 14、発表 15、発表 20、発表

26、発表 27 がある。最後に、比較となる関連する言語使用地域を探ったのは、発表 、発表 、発表 、発表 がある。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 8 件)

ロング ダニエル、高城隆一 (掲載決定)「ハワイ英語で使われる日本語起源借用語 話者属性による使用状況および音韻論的特徴について 」『日本語研究』39 号 (査読有)

ロング ダニエル、高城隆一 (2019.03)「マーシャル語辞典掲載の日本語起源借用語と若年層の使用傾向—意味と発音の変化に注目して」『人文学報』515-7 号:29-49 (査読無)

Imamura, Keisuke (2018.03) Pursuit of insular authenticity: Spelling reform of loanwords in Palauan. *Shima*. (査読有)

ロング ダニエル、甲賀真広 (2017.03)「接触言語の分類に関する量的研究 起点言語の割合を通して 」『人文学報』513-7: 45-54 (査読無)

ロング ダニエル、今村圭介 (2016.06)「パラオ国アンガウル島における日本語の使用」『日本語研究』36: 13-26 (査読有)

Imamura, Keisuke & Jonathan Masaichi. (2016.03) Phonological Change of Japanese Loanwords in Palauan: Toward the standardization of spelling of loanwords 『教養部研究紀要』46: 35-46. (査読無)

ロング ダニエル、今村圭介 (2016.03)「チューク語の日本語起源借用語にみられる音韻対応と意味変化」『人文学報』512-7: 55-74 首都大学東京人文科学研究科 (査読無)

ロング ダニエル、他 (2015.06)「ハワイ英語で使われている日本語起源借用語」『日本語研究』35: 139-152 TMU 日本語研究会 (査読有)

〔学会発表〕(計 28 件)

Imamura, Keisuke. (2019.03.20) Introduction and the Use of "A Dictionary of Japanese Loanwords in Palauan". Palau Ministry of Education

Long, Daniel (2019.03.13) Multilingualism in the Japanese Empire: Data Collection to Applications of Research Results. Workshop sponsored by University of Hawaii Department of History.

Imamura, Keisuke. (2019.03.13) Building Rapport and Social Contribution Through Sociolinguistic Fieldwork. Source-Analysis Workshop "Studies of the Japanese Empire and Its Legacies: New Directions and New Perspectives" University of Hawaii Manoa

Koga, Masahiro (2019.03.13) Data Collection for Research into the Linguistic Environment of Japanese-ruled Manchuria(旧満洲国の言語研究のデータ収集法). Source-Analysis Workshop "Studies of the Japanese Empire and Its Legacies: New Directions and New Perspectives" University of Hawaii Manoa

Long, Daniel (2019.03.12) The Bonin Islands as the first steps towards the Japanese Empire: Imperial Implications of Empirical Sociolinguistics. Symposium "Learning Linguistic Lessons from Japan's Multilingual Imperial Past and their Applications for Japan's Multicultural Future: The Intersection of Empire Studies and Linguistic Fieldwork", University of Hawaii Center for Japanese Studies.

Imamura, Keisuke. (2019.03.12) Developing a Japanese Loanword Dictionary in Palauan. Symposium "Learning Linguistic Lessons from Japan's Multilingual Imperial Past and their Applications for Japan's Multicultural Future: The Intersection of Empire Studies and Linguistic Fieldwork", University of Hawaii Center for Japanese Studies.

Koga, Masahiro (2019.03.12) The Linguistic Environment of Imperial Manchuria: Documentation and Analysis of Diachronic and Regional Complexity. Symposium "Learning Linguistic Lessons from Japan's Multilingual Imperial Past and their Applications for Japan's Multicultural Future: The Intersection of Empire Studies and Linguistic Fieldwork", University of Hawaii Center for Japanese Studies.

今村 圭介. (2018.10.14)「福祉言語学的研究としてのパラオ語日本語借用語辞典の作成」日本語学会 2018 年度秋季大会、岐阜大学

Long, Daniel (2018.06.28) Methods for eliciting information that do not know you are searching for: Identifying Japanese-origin loanwords. (Short Colloquium: "Contact between Japanese and Palauan: Sociolinguistic fieldwork interfacing with language acquisition and language policy research" 22nd Sociolinguistics Symposium). Auckland, New Zealand

Imamura, Keisuke (2018.06.28) From sociolinguistic fieldwork to social contribution: Cooperative work with the Palau Language Commission. Sociolinguistics Symposium 22, University of Auckland

ロング ダニエル、今村圭介(2017.11.11)「ヤップ語になった日本語—リンガフランカ地域に根付いた日本語起源借用語—」日本語学会秋季大会口頭発表 (金沢大学)

Long, Daniel (2017.08.07) Language Contact and Contact Languages involving Japanese. (Methods XVI). Tokyo

- ロング、ダニエル、朝日祥之、他(2017.07.08)「研究と教育の融合をめざした授業実践報告とその効果に関する考察 - ハワイ日系人の日本語を授業プロジェクトで分析した報告 -」『第10回 実用日本語言語学国際会議』国立国語研究所
- Imamura, Keisuke, Jonathan Masaichi (2017.06.27) Documenting Japanese loanwords in Palauan. 36th International PIBBA Conference, Pohnpei State, Federated States of Micronesia
- Long, Daniel et.al (2017.05.17) Dialect and Language Contact Features in the Speech of a Hawaiian Nikkei Speaker. (NINJAL/NMJH/UHM Workshop "Underdescribed Languages and Histories: Linguist's and Historian's Challenges"). University of Hawaii, Honolulu
- Long, Daniel (2016.11.29) Phonological traits of the Japanese and English spoken by Nikkei speakers in Hawaii. (invited presentation, American Acoustical Society: Cross-Linguistic Speech Production and Perception). Honolulu, Hawaii
- 今村 圭介 (2016.10.29)「日本統治を経験したパラオ人によるパラオ語の片仮名表記」日本語学会 2016 年度秋季大会 山形大学
- ロング、ダニエル(2016.10.29)「太平洋諸言語における日本語起源借用語の意味論的特徴 カロリン語、チャモロ語、パラオ語、チューク語を例に 」日本語学会秋季大会、山形市
- ロング、ダニエル (2016.09.08)「パラオ語における日本語起源借用語が多い社会歴史的要因について」『公開研究会「アジア・太平洋の日本語と日本語教育を考える会」第6回『太平洋諸島および沖縄に残る日本語の影響』』インドネシア、バリ島
- ロング、ダニエル(2016.08.05)「太平洋諸言語にみられる日本語起源借用語の類似点と相違点 パラオ語、チャモロ語、カロリン語、チューク語を中心に 」『東アジア日本語教育・日本文化研究会 2016 年度国際学術大会』 ハワイ州、ヒロ市
- 21 Imamura, Keisuke (2016.06.19) Island Pride: Language change and attitudes towards loanwords in Palauan. The 12th International Small Island Cultures Conference, Okinawa Prefectural University of the Arts
- 22 Long, Daniel (2016.06.19) Semantic Changes in Loanwords Reflecting Micronesian Island Lifestyles. (12th International Small Islands Cultures Conference =ISIC 12). Naha Okinawa
- 23 ロング、ダニエル (2016.01.11)「太平洋諸語で使われる日本語起源借用語の意味変化 パラオ語、チューク語、カロリン語、チャモロ語の比較 」(公開研究会「アジア・太平洋の日本語と日本語教育を考える会」第5回「太平洋地域における日本語の言語的ダイアスポラ 」) 首都大学東京
- 24 今村圭介 (2015.10.31) パラオ語における日本語借用語の変化. 日本語学会 2015 年度秋季大会 山口大学
- 25 ロング、ダニエル (2015.10.09)「チューク語にみられる日本語起源借用語の意味変化 『太平洋日本語借用語逆引き辞典』の作成に向けて 」(『公開研究会「アジア・太平洋の日本語と日本語教育を考える会」第4回「日本国内外における言語接触』』 琉球大学
- 26 ロング、ダニエル(2015.07.17)「『太平洋日本語借用語逆引き辞典』におけるハワイ英語を含む意義」『公開研究会「アジア・太平洋の日本語と日本語教育を考える会」第3回「ハワイの日本語の記録と分析』』 首都大学東京都
- 27 ロング、ダニエル(2015.06.06)「『太平洋日本語借用語逆引き辞典』の作成に向けた基礎的研究」『公開研究会「アジア・太平洋の日本語と日本語教育を考える会」第2回「パラオの日本語の記録と分析』』 首都大学東京
- 28 ロング、ダニエル(2015.05.11)『ネイティブ不在地域で発生した新型接触言語 パラオ国アンガウル島からの報告 』 奈良大学第150回変異理論研究会

〔図書〕(計 1件)

今村圭介、ダニエル・ロング(2019.03.19)『パラオにおける日本語の諸相』ひつじ書房(総232頁)

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：今村 圭介

ローマ字氏名：(IMAMURA, Keisuke)

所属研究機関名：東京医科歯科大学

部局名：教養部

職名：助教

研究者番号(8桁): 00732679

研究分担者氏名：磯野 英治
ローマ字氏名：(ISONO, Hideharu)
所属研究機関名：名古屋商科大学
部局名：商学部
職名：准教授
研究者番号(8桁)：50720083

研究分担者氏名：小西 潤子
ローマ字氏名：(KONISHI, Junko)
所属研究機関名：沖縄県立芸術大学
部局名：音楽学部
職名：教授
研究者番号(8桁)：70332690

研究分担者氏名：中井 精一
ローマ字氏名：(NAKAI, Seiichi)
所属研究機関名：富山大学
部局名：人文学部
職名：教授
研究者番号(8桁)：90303198

(2)研究協力者

研究協力者氏名：朝日 祥之
ローマ字氏名：(ASAHI, Yoshiyuki)
研究協力者氏名：甲賀 真広
ローマ字氏名：(KOGA, Masahiro)
研究協力者氏名：高城 隆一
ローマ字氏名：(TAKI, Ryuichi)

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。